

決算委員会での議論/大島からの問題提起

9月定例会の大きなテーマの1つが、「**決算案の認定**」。委員会ごとに、名古屋市の前年度1年間の税金の遣い方を審査します。

大島は、所属する**教育子ども委員会**において子ども青少年局・教育委員会に対する議論、問題提起を行いました。

《子ども青少年局関連》

在宅で医療的ケアを受ける方への非常用電源装置購入補助について

令和6年度、在宅で人工呼吸器を使用する方に行った非常用電源の購入補助の件数は、**想定を上回った**。この結果からも、大災害への備えとして在宅で電気式の医療機器を使用する方の非常用電源確保のニーズは**一定以上ある**ことがわかる。人工呼吸器以外の機器への対象拡大の検討を、速やかに進めること。

本件は**令和7年2月定例会**でも質問を行っており、今回その後の検討状況を質しています。市もその**必要性を認め、対象を拡大して令和8年度予算要求される**予定です。



《教育委員会関連》

中学校における部活動の現状について

学校間で、実施する部活動数に差が生まれている。**(下図参照)**

生まれ育つ地域によって、子どもたちの間に**体験格差**が生じている状況。今、部活動は行政的には“**地域移行までの過渡期**”にあるかもしれないが、最も優先されるべきは「**子どもにとっての活動・体験の機会**」。

現場の声にもしっかりと耳を傾け、子ども本位で、**格差解消のための取組み**を検討すること。

《1校あたり部活数平均》 《1校あたり部活数多い/少ない》

	1校平均	1校あたり部活数多い/少ない	
		多い学校	少ない学校
運動部	5.3	1位 14	2
生産・文化部	2.3	2位 13	3
計	7.6	3位 12	3



令和7年夏も、大学生インターンの受け入れを行いました！

大島事務所では、8-9月の間、大学生インターンシップを受け入れさせていただきました。今回は**過去最多の4名**が参加！**「政治を自分ゴトに」**を1つのテーマに、それぞれが大島事務所の一員として共に汗を流し、真剣に政治と向き合いながら、活動してくれました。私自身、彼らの姿勢に多くの刺激をいただき、ご縁に感謝しています。なお、大島事務所では**随時インターンの受け入れも行っております**ので、ご興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください！



インターン生の皆さんと

身を切る改革、維新だからできる。



日本維新の会 名古屋市議員(名東区選出)

大島ひでひろ 市政報告 vol.10

～ 古い政治を壊す。新しい政治を創る。～

日頃の感謝とご報告

いつも大島ひでひろの活動へのご理解・ご支援ありがとうございます

ニュース等でご存知の方も多いいことと存じますが、この度、日本維新の会は、自由民主党との連立政権を樹立することとなりました

もとより私自身、我々政治家の存在意義は「**政策を実現すること**」にあると承知しており今回の連立も、そのための手段と理解しております連立合意書にも記載された「**12本の矢**」と呼ばれる政策の実現に向けて、捨て身の覚悟で党一丸となって取り組んでまいります大変微力ではありますが、大島もその末端として、名東区のため、名古屋のため、将来世代のために、これからも変わらず「**是々非々**」の姿勢で活動してまいりますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます

名古屋市議員
大島ひでひろ



昭和60年名古屋生まれ/愛知県立明和高校、中央大学法学部卒/郵便局(現・日本郵便)入社後、社長秘書、経営企画部など歴任/愛知維新の会事務局次長を経て、令和5年名古屋市議員選挙(名東区)初当選/現所属:日本維新の会名古屋会議団、愛知維新の会幹事長



令和7年9月定例会 本会議質問 **いじめ問題の早期発見・長期化防止に向けた取組とその後について**

広沢市長が就任直後の昨年11月定例会。大島は市長の**最重要公約**の1つである「子どもを一人も死なせない名古屋の実現」について、質問しました。

名古屋に生まれ、育ててくれた子どもが、誰一人欠けることなく健やかに生きていて欲しい。名古屋市政に関わる誰しもが願うことであるはずなのに、名古屋ではいじめ重大事態の件数や子どもの自死数は**増加傾向にあり**、子どもたちを取り巻く環境は「**このままではいけない**」と、危機感を抱かざるを得ない状況です。そこで、一年前に大島が提案した、大阪府寝屋川市の取組みをモデルにしたいじめ問題への対策に「**非常に参考になる**」と答弁した広沢市長に、**この一年間の取組みと現状を質しました**。



Q.市長はこの間、いじめ問題とどう向き合ったか

名古屋では、これまでも教育における構造的な課題が指摘されてきた。令和3年「**いじめ問題再調査委員会報告書**」では、1番最初の提言として、「**教育委員会から独立したいじめ対策の調査・検証機関の設置**」が掲げられた。にもかかわらず、現在名古屋にその受け皿となる組織は存在しない。大島も寝屋川市の事例をもとに、いじめ問題への「**学校外からのアプローチ**」の重要性を提案してきた。しかし、そうしたやりとりを経て、なぜか今年の9月から、教育委員会が主体のいじめ対策の新たな試行が始まっている。

参考 寝屋川市では、いじめ問題への対応を、学校が担う「**教育的アプローチ**」と、「**学校外からのアプローチ(行政的アプローチ)**」に分けて役割分担を行い、市長部局の「**監察課**」が、実行力をもって「**いじめの即時停止**」に取り組んでいます。一年前、寝屋川市の「**学校外からのアプローチ**」の取組みを「**非常に参考になる**」「**自ら出向いて調査することも考える**」と答弁した広沢市長はこの間、名古屋のいじめ問題の早期発見・長期化防止に向けた対策として、具体的にどのような検討をしてきたのか。また、教育委員会が始めた試行は、本質的な部分で「**学校外からのアプローチ**」とは異なるもの。早い段階で軌道修正を。

A.大綱を策定し、調査・研究の指示を行ったところ

教育委員会による試行は、寝屋川市を参考に始めたものであるものの、「**学校外からのアプローチ**」とは異なるものであると考えている。就任後、「**なごや子ども応援大綱**」を策定し、その中でいじめの未然防止や早期対応などを掲げた。また、「**学校外からのアプローチ**」については寝屋川市をはじめ様々な取組みが行われており、子ども青少年局に対して、まずは調査・研究を行うよう指示したところ。



大島ひでひろ



広沢一郎市長



大島ひでひろ

Q.一刻の猶予もない。具体的なロードマップを

教育委員会による試行を「**学校外からのアプローチとは異なるもの**」と明確に答弁いただいた点は、少し安堵した。統計データを見れば、名古屋は「**いじめがなかなか解消されず、長期化する傾向のまち**」という課題を突き付けられており、少なくとも、「これまでの延長線上や微修正」の対策を続けていても、救うことができていない子どもたちがいることは、明らかである。

参考 令和6年に文部科学省が公表した調査結果によれば、名古屋市におけるいじめの「**解消率**」は、全国平均と比べて**15ポイント**近く、政令指定都市平均と比べても**10ポイント以上**下回っています。さらに、「**3か月以上長期化しているいじめの割合**」は全国平均、政令指定都市平均の**およそ2倍**にも達しているのです。

いじめ問題に対する「**学校外からのアプローチ**」について、教育委員会の外にある、市長部局の「**子ども青少年局**」に調査・研究の指示を出していただいたとのこと。前回の質問から一年を経過しており、再三申し上げてきたように、名古屋の子どもを取り巻く環境の改善は、一刻の猶予も許されない状態。悠長に検討を続けられるような状況ではない。「**あらゆる手を尽くす**」と、市長が強い覚悟をお示しいただくのであれば、**明確に期限を切って、この検証を進めていくべきではないかと考えるが、「いつまでに」「どんな検証を行うのか」**市長が描く具体的なロードマップをお示しいただきたい。



広沢一郎市長

A.できるだけ早期に検証できるよう、進める

昨年度から寝屋川市の取組みを参考に検討を行い、教育委員会において「**いじめの即時停止**」を目的とした新たな試行を9月から開始したところだが、大島議員がご指摘のような状況も依然としてあり、「**学校外からのアプローチ**」を含め、さらなる対策を検討するため、まずは子ども青少年局に対して寝屋川市をはじめとした他都市の取組みを調査するよう指示したところ。今後については、教育委員会における試行の検証を行うとともに、精力的に調査・研究のうえ、**できるだけ早期に検証できるよう進めてまいりたい**。

質問を終えての大島所感

大島の乏しい社会人経験の中でも、本気で進めるべき仕事に期限を設定しないというのは**正直考えられず**、市長の答弁は残念です。とはいえ「**できるだけ早期に**」という答弁もありましたので、今後の動向を**しっかりと追ってまいります**。

動画はコチラ 本会議質問の様子は、動画を**Youtube**に**アップ**しています。ぜひ右記QRコードからご覧いただき、ご意見をいただけたら嬉しいです！

